

長野県諏訪市  
渡辺牧場

## 渡辺一徳 氏

【経営データ】

■個人データ／1955生まれ。渡辺牧場の労働力は、代表者の俊夫さん夫妻と両親、そして一徳さんの5人。渡辺さんたちの「信州霧ヶ峰高原牛乳」は、長野県の「信州匠選」の選定商品に選ばれている。 ■経営概要／搾乳40頭・育成30頭。飼料作は14・5ha。

※■の数字は資料請求番号です



スーパー読者の  
経営力が選ぶ

# あの商品この技術 24

農機マニアの読者なら、渡辺一徳さんと話せば、きっと話題が尽きないであろう。機械情報を様々な手段で集め、比較検討する。そして、様々な人脈を使って各地に眠っている有意な機械を探し出してくる。その機械技術への指摘は、一々頷かされる。



48 小型自走式コンポスターナー「コンポターンRT2500」(緑産)

幅2,500×高さ1,100mmの堆肥の列を跨ぎ、攪拌しながら走行する堆肥切り返し機である。このタイプの切り返し機は、同社のさらに大型のタイプが大規模畜産農家に入っているケースが多いが、渡辺農場のタイプはそもそも小型のタイプ。渡辺さんにもより大きなタイプを導入したいという意向があったが、補助金が受けられなかったことから、このタイプをリースで導入することになった。

エンジンは85hpディーゼルで、全油圧式操作。左右2本のレバー操作で左右のクローラを操作させる。

左右のウイングで堆肥の山を寄せ、機体下のロータリ攪拌部で切り返しをする構造。攪拌部は左右がスクリュウローターで外側の土を内に寄せるようになっており、攪拌部の中央で堆肥を攪拌し、堆肥が左右上下に良く混ざる仕組みになっている。写真を撮るために約40mの堆肥の山を数分で走ってしまったが、もっとゆっくりしたスピードで作業する方が適正な切り返しになるという。1週間に一度くらいのペースで切り返しをする。

屋根をつけた堆肥盤に牛舎からパークリーナーで敷き料と混ぜた牛糞が搬入され、それをバケットローダでおおよその条列にし、その上でこの機械を掛けていく。圃場還元はコーンや牧草の播種前など年3回しかないわけで、4カ月は堆肥舎に牛糞が滞留する。上の写真はコンポスターの収納地の状態。機械は約1,300万円。



代表の俊夫さんは、メガファームを目指すという方向もあるとは思いますが、自分達にとつての適正規模を良く見極め、量より良質な牛乳生産をめざす経営をしていきたいという。当初は8軒の農家で始めた酪農だったが、その後、離農や野菜へ転業す

るために様々な作物に取り組んだ。経営が安定したのは酪農が定着してからだ。数頭規模から始まり、親の代で20頭程度まで頭数を増やしていたが、兄弟が受け継いだ1979年に規模拡大した。現在の飼養頭数は搾乳40頭で年間乳量約390t。飼料作はコーン4・5ha、昆播牧草10haの計14・5ha。

父上は高冷地の農業を成り立たせるために様々な作物に取り組んだ。経営が安定したのは酪農が定着してからだ。数頭規模から始まり、親の代で20頭程度まで頭数を増やしていたが、兄弟が受け継いだ1979年に規模拡大した。現在の飼養頭数は搾乳40頭で年間乳量約390t。飼料作はコーン4・5ha、昆播牧草10haの計14・5ha。

父上は高冷地の農業を成り立たせるために様々な作物に取り組んだ。経営が安定したのは酪農が定着してからだ。数頭規模から始まり、親の代で20頭程度まで頭数を増やしていたが、兄弟が受け継いだ1979年に規模拡大した。現在の飼養頭数は搾乳40頭で年間乳量約390t。飼料作はコーン4・5ha、昆播牧草10haの計14・5ha。

父上は高冷地の農業を成り立たせるために様々な作物に取り組んだ。経営が安定したのは酪農が定着してからだ。数頭規模から始まり、親の代で20頭程度まで頭数を増やしていたが、兄弟が受け継いだ1979年に規模拡大した。現在の飼養頭数は搾乳40頭で年間乳量約390t。飼料作はコーン4・5ha、昆播牧草10haの計14・5ha。

長野県の諏訪市中心街から車で約30分、山道を登りつめた標高約1300mの霧ヶ峰高原に渡辺牧場はある。父親が戦後開拓で入植し、現在は一徳さん(51歳・右)・俊夫さん(48歳)の兄弟がその経営を継承している。障害を持つ一徳さんに代わって代表者は俊夫さんが務めるが、機械の担当は一徳さんである。





**50** クーンパーチャル  
ハロー-HAB252 (エム・エス・ケー農業機械)  
各社のパーチャルハローがあるが、機体後部に播種ユニットを組み合わせる平行四辺形のリンクがあるのでクーンにした。ハローの後部にも鎮圧ローラが付いているが、さらに下の写真の鎮圧ローラ付き播種機を組み合わせる予定。



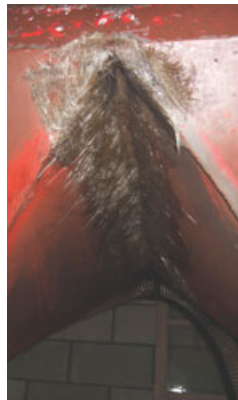
**49** 電気柵器 ゲッターシステム (末松電子製作所)  
鹿と猪が悩みの種である。渡辺牧場では放牧をしない。電牧はもっぱらコーン畑の獣害農所の手段になっている。



牛舎の敷料にはモミガラ、オガクズに加えてソバ殻を使っている。水分の吸収は良くないし分解もし難い。でも、渡辺氏はそれが良いのだという。



**Brillion**. 前後に大型のリングローラを持つ播種機。中古で買ったもの。これまでロータリを掛けてこれを使っていたが、今年からはパーチャルハローとの複合作業機にして牧草を播くつもり。鎮圧効果で発芽を良くするとともに、車輪の轍もなくなることを期待している。



ガラス繊維と接着剤を混ぜて使う修理キットを買ってきて、東洋農機の古い真空播種機のホッパを修理していた。渡辺さんお勧めのメンテナンス資材だ。

低床のロングボデーでダンプ仕様に特装した渡辺さん自慢のトラック。乾草やワラの運搬には人手による作業が多く、その積み降ろし作業のためには荷台が低いと困る。とはいえ、モミガラなどの敷料の扱いにはダンプができなければ仕事にならない。そういう欲張った要求のためにこうした仕様での特装を頼むことにした。



中古機であるが、オーストリア製のファームワゴン (REFORMWRK WELS) を修理してコーンハーベスタの中刈りやサイレージの運搬などに使っている。四輪駆動でPTOが付いており、それでフロアコンベアやマニュアルスプレッド用のピータが動かせるようになっている。フロアコンベアを動かしたり、マニュアルスプレッドとして使うことは無いが、機械好きには持っていることを自慢したくなるような機械だ。



トラックはメイントラックのMF 6160 (100ps) を除けばほとんどが中古。FORD 4630 (61ps)、MF135 (46・8ps) の他、三菱の65ps、クボタの59・5ps等等。その他の機械も、機械知識と情報を集める情報源があればこそ探し出せる中古の機械が多い。その反面で革新的技術には思いきった投資をしている。

(昆吉則)

農場の周辺は「信州霧ヶ峰牧場」の仲間の農場があるだけで、人里とは離れてはいるものの、廃棄物処理法の施行で糞尿の堆肥化に大きな投資を迫られた。近年の悩みは鹿や猪による飼料作物の食害。それと、飼料畑に入り込む西洋タンポポに悩まされているという。

「選定の商品に選ばれている。」  
「霧ヶ峰」の選定商品に選ばれている。農家の周りには「信州霧ヶ峰牧場」という共通ブランドで八ヶ岳乳業(株)に出荷している。八ヶ岳乳業では渡辺さんたち4軒の農家の牛乳を、生産者特定の成分無調整牛乳「信州霧ヶ峰高原牛乳」としてプレミアムを付けて専用のパッケージで販売している。さらに、渡辺さんたちの「信州霧ヶ峰高原牛乳」は、長野県商工会連合会が行なう信州匠選事業の第1回信州匠選選定会(2003年)で「信州匠選」の選定商品に選ばれている。